

## スモンの被害

島田 直(静岡県スモン友の会名誉会長。静岡県身体障害者相談員)

静岡県富士市在住。昭和44年、市立吉原商業高校勤務中にスモンに罹患。同48年スモンのため退職。その間、スモン運動に参加し、訴訟に積極的に加わる。現在の病状は、①両眼視神経萎縮症1級②両下肢機能障害2級③内部疾患(気管支ぜんそく、心不全、消化器疾患、泌尿器疾患)で苦しむ。薬害根絶運動の先頭で活動中。

私の生まれ育った富士市は富士山の南麓に開けた町で、水清く空気のきれいな温暖の地であった。

戦後、製紙産業が盛んになり、経済成長の波に乗って工業化が進み、昭和44年ころには大気汚染、河川汚濁等の公害問題が顕著になっていた。その富士市に奇病が発生した。歩けなくなったり、目が見えなくなったり、中には亡くなる人もいた。専門家による調査団が来て調査したが原因は判明しなかった。

この奇病は後にスモンであることが判明したが、私もこの年スモンの被害者となった。

奇病の患者は富士市でも吉原地区のY病院に多かった。Y病院は民間病院であるが旧吉原市時代公的病院が無く市立病院的存在であった。

私も市役所勤務時代仕事でお世話になっており個人的にも受診した事があった。

私の親しかった人達・友人・友人の母親・中学時代の恩師・近所の商店のおばさん等が奇病のため亡くなった。

私も知り合いの人達が病気になり短期間で亡くなって行く事に恐れを感じていた。公式に発表されたわけではないがスモンではないかとのうわさもかなりささやかれていた。

昭和44年、当時地元の市立高校の教員をしていた私は、顧問をしていた卓球部の夏の合宿が終わった後、軽い下痢が続いていたので時々かかっていた近くのY病院を訪れ医師の診察を受けた。医師の問診に対して「軽い下痢が続いている」と話すと粉薬を出してくれた。これが私の人生を変える元になろうとは夢にも思わなかった。

9月初旬より強烈な腹痛が始まり、中旬には両足の裏に何か張り付いたような感じがして歩きにくくなってしまった。頑張って勤務していたが授業をしていると冷汗が流れ腹部や下肢の異常が続き目がかすむ事もあった。幸い2週間位でこの症状はおさまり普通に勤務出来るようになった。1ヶ月位は落ち着いた症状が続いていた。ところがその後病状は再び悪化し、腹部の激痛、全身の冷えや硬直、そして便秘に苦しめられたため通院にも耐えられず、ついに11月にY病院に入院した。入院後3週間くらいたって便秘やその他の症状が軽快したので月末に退院した。

12月1日に登校した際、靴が脱げない、スリッパが飛んでしまうといった症状が現れ、授業ができるような状態ではなかったので同僚に送られてY病院に直行し、そのまま入院することになってしまった。

この事件以後、部屋を訪れる回数はさらに多くなった。後に知ったのであるが、2月に朝日新聞がスモンウイルス説を紙面に大々的に掲載し、全国のスモン患者や家族に大きな衝撃を与え、多数の自殺者を出し、家の引越し、家庭崩壊など多くの悲劇を引き起こしていた。

明暗しかわからず、ベッドで動くこともできなくなった私は、何とかこの苦しみを乗り越えたいと病院で知り合った人のすすめもあって1日に1首短歌を作ることを決心した。気持ちを集中させ何とか1首つくり、夕方病院に来てくれる妻に書き留めてもらっていた。

しかし、ついに最悪の事態がやってきた。6月の中ころ、朝、恐る恐る天井を見ると、夕べまで

かすかに見えていた天井の線が見えない。私は失明してしまったのだ。

担当医師に励まされ、誠心誠意努力して療養に努めてきた私は、この両眼失明によって苦しみと絶望のどん底に突き落とされてしまった。私はベッドの上でのたうち回り、いてもたってもいられない不安を抑えることができなかった。

こうした心身ともに最悪の状態にある私に対し、家族は懸命に介護し、友人や教え子たちも絶えず励ましてくれた。

私の妻は、当時保育士の仕事を続けていたが仕事が極めて忙しいにもかかわらず、最大限時間をとって私に付き添うようにしてくれた。こうした妻の思いやり、励ましにも当時の私はとても応えることができず、ただただ「苦しいよ。不安だよ。」と訴え続けて困らせるばかりで、それはまさに狂乱状態であった。

このころ新潟大医学部の椿教授が疫学調査の結果スモンは整腸剤キノホルムによる薬害であると発表され大きな反響をよび患者に希望を与えたがウイルス説も強く、患者は全面的に安心出来る状態にならなかった。

45年9月はじめに厚生省(当時)が整腸剤キノホルムの製造販売を禁止する行政措置をとったというニュースを家族から聞いてこれまでぐれにぐれていた気持ちや憔悴状態は徐々に改善されていった。

患者・家族を恐怖に落し入れた奇病はスモンという薬害であった。しかもその犯人は整腸剤キノホルムであった。キノホルムは明治末期に傷の外用药としてスイスのチバ社によって製造販売され殺菌力が強かった事もあって世界中に広く使われていた。昭和に入ってチバ社がアメーバ赤痢による下痢にきく薬として内服薬に転用することに成功した。外用药と同じように広く使われわが国でも輸入され使用された。

キノホルムは毒性が強いという事で米国FDAをはじめ何人かの専門家から使用制限や薬の服用の仕方について警告が出されていた。

日本でも最初は劇薬の指定がされていたがい

つのみにか普通薬として使用されていた。

入院後4日目の朝、向かいの人のベッドの上にはあってあるカレンダーの字がかすんで見えたときは、もしかしてスモンに罹患したのではないかと驚き、慌てたが医師の励ましで気持ちを落ち着けることができた。

視力の低下は止まらず1週間で1.2の視力が0.2に下がってしまった。痺れのほうも上向をし続け、12月半ばころにはへその辺りにまで上がり、下半身がぐにゃぐにゃになってしまった。

そのころ悲しい、恐ろしいことが起こった。同じ病院に入院していたAさんが亡くなったのだ。Aさんは30歳くらいの女性で、1ヶ月くらい前に私の症状が自分の症状に似ていると誰かに聞いたらしく、病室に3歳になる子どもを連れて話を聞きに来ていた。そのころ私の病状は落ち着いていた。発病からの経過を話すとAさんも少し前に似たような症状で入院したが、家庭の事情もあり一時退院したとのことであった。私の話を聞いても心配が残ったような感じで帰っていった。Aさんは私と入れ違いに入院したが、症状は急激に悪化して、しばらくして歩行不能状態となった。

深夜、廊下を走る人の気配とAさんの夫が親族らしい人に訃報を告げているのと、子供に泣き顔を見せるなど話しているのを耳にし、次は自分の番かと心の冷える思いがした。

その後も症状は日一日と悪化し、1メートル先のテレビ画面がわからなくなってしまった。原因もわからず眼も足もどンドン悪くなっていく苦しみと不安に、際限もなく私は日々さいなまれた。

45年の正月は小康状態となったが、足の痛み、妙な感じ、そして冷えは残り、字は読めなくなり、テレビも顔を近づけるようにしなければ見えなくなっていた。

小康状態は長くは続かなかった。2月にはいつてもまもなく軽い下痢に始まり、便秘になって、歩き出そうとするとひざがガクッと折れて歩けなくなった。それに続いて視力も低下していった。1週間くらいたったころ、やっと小康状態を取り戻した。

病気の進行はその後もやってきた。3月終わりのころ同じ経過をたどり、病状は確実に悪化した。

4月に事件が起きた。30歳の若い患者が病院で自殺したのだ。土曜日ということで3歳の子どもさんが泊まっていた。最初に異変に気づいたのは子どもさんであった。子どもさんは泣き叫び、職員は対応に走り回り、深夜の病院は大変な騒ぎになった。私は生きた心地がしなかった。亡くなった人の子どもさんと私の子どもは同年であり、娘のことを思うとただただ涙を流すばかりであった。

これまでも医師や看護師は治療や症状のチェックによく来てくれていたが、戦後国内で田辺製薬が製造販売したのに続いてチバガイギー社（多国籍企業）が製造販売、タケダ薬品がチバガイギー社の製造したキノホルムを販売した。いずれも整腸剤として効能を宣伝し副作用の少ない薬として販売していた。

昭和30年代に入って患者が各地で発生しだした。昭和39年に東京オリンピックボートコースとなった埼玉県戸田市に多発したことで全国的に知られるようになった。

この年に研究班が結成されこの病院に亜急性脊髄視神経症の学名の頭文字をとって「SMON」と名付けられた。

昭和40年代に入って患者は増加し昭和44年がピークとなり45年9月キノホルムが厚生省の行政措置により製造販売が中止になるまで被害者が出ていた。

46年1月19日、私は東京大学の豊倉教授に診察してもらう機会を得て、スモンとの診断を受けるにいった。病状のほうも両眼失明、歩行困難のまま回復の見込みもないため、昭和46年3月14日にY病院を退院した。

家族はみんな私の退院を喜んでくれた。特に幼稚園に行くようになっていた娘の喜びは大きく、幼稚園で習った遊戯を見せてくれたり絵本を持って来て読んでくれるようにせがんだりしたが、見てやることも読んでやることもできなかった。翌日、幼稚園から帰ってきた娘は私の異常にショ

ックを受け、妻の勤め先の保育園に行こうとして迷子になり、近所の方のお世話になった。帰りたかった家に帰ってきたものの、私はしばらくの間帰って来てよかったのか悪かったのか思い悩んだ。

一家の中心とならなければならない私がスモンで倒れ、一年半にも及ぶ入院生活を強いられ、かつ退院後もまったく就労できず、さらに日々介護を要する状態になってしまったため、私と家族の家庭生活は根本から破壊されてしまった。

長い入院生活のため、生活費、入院費の捻出自体大変なことであった。そのため妻は保育士の仕事を継続せざるを得なかった。30余年間の保育士生活の後、6年前に退職して家庭に入ったが、私のスモン本体の症状と後遺症が悪化し、老齢化したため、介護に、より負担が大きくなり、今日に至るまで過労状態はなんら改善されえないまま続いている。

スモンは私の両親の老後の計画、楽しみもすべて奪ってしまった。父は大切にしていた書画骨董のほとんどを売り払わざるを得なくなってしまい、母は60歳にして育児と私の介護に全面的に携わらねばならなくなってしまった。父は心身の過労で倒れ、二年余りの療養の末世を去った。母も、父と同じように、心身の過労のため痴呆が加わり別人のような状態で亡くなった。父母とも、私の娘が生まれたときには大変な喜びようで、その成長を楽しみにしていた。5人家族のささやかな、楽しい家庭を崩壊させたスモンを許すことはできない。

昭和47年厚生省委嘱のスモン調査協議会はスモンの原因は整腸剤キノホルムであることを発表した。

しかし、その報告を受けた当時の厚生大臣は「専門家の報告は尊重するが国の責任は別である。」と答えた。製薬会社も同調した。

追い込まれた患者は国と製薬会社を相手取り、訴訟を起こすしか救済される道がないことを思い知らされた。

四大公害訴訟、サリドマイド訴訟に学び地元で

患者が中心になって訴訟を起こす決意をした。

スモン患者は立ち上がった。

弱い力を寄せ合って積極的に外に出た。

スモンの運動が公害、薬事運動史上画期的な成果を上げたのは、経済成長一本やりのやり方、それに対する反省もあったが、私たちがこれまでの患者運動の常織を超えて薬害の恐ろしさ、患者救済の正当性をひたむきに訴え続けたことに世論の大きな支持が寄せられたからである。私たちは法廷や街頭で訴えた。

9つの裁判所で全面勝利判決を勝ち取り、国会では薬事二法が成立し、大行動の結果、ついにスモン患者救済のルールである確認書を国と製薬

会社と締結することができた。この確認書の締結により運動の泥沼化を防ぎ、投薬証明書のない患者救済に成功することができた。

確認書締結から25年が過ぎ、患者はスモン本体の症状、後遺症の悪化に苦しんでいる。これはスモンの被害を受けなければ起きなかったことである。また、患者と家族は高齢化している。

スモンの後にも、エイズ、ヤコブ病、ソリブジンなどの忌まわしい問題が起きている。

私は自分たちの運動が正しかったことを確信し、同じ目的を持った仲間同士、力を合わせて薬害の根絶と被害者の救済が実現するよう生きていくかぎり努力する所存である。

## スモンとは

スモン (SMON) は (亜急性・脊髄・視神経・末梢神経障害) の略称。整腸剤「キノホルム」を服用したことによる副作用です。腹部膨満のあと激しい腹痛を伴う下痢がおこり続いて、足裏から次第に上に向かって、しびれ、痛み、麻痺が広がり、ときに視力障害をおこし、失明した人も大勢います。膀胱・発汗障害などの自立障害性症状・性機能障害など全身にキノホルムの影響が及んでいます。中枢神経麻痺・末梢神経麻痺・感覚麻痺の三つが加わったスモンの運動機能障害は、機能を回復することはきわめて困難と云われています。涙ぐましい努力によってやっと歩行が出来るようになった患者も、今では疲労と加齢が加わって、かなり症状が悪化し、余病も併発しやすくなっています。

1955年頃から散発し、1967～8年の大量発生で (12,000～16,000名とも云われる) 奇病、風土病、ウイルス説まで発表されたため、村八分、家族からも引き離されて自殺者が相次ぎました。

これらの被害は、術後の回復のため、また胃腸障害等、医師の投薬によって引き起こされたものが大半で、市販薬、地方によっては置きぐすりによっても被害を受けました。

1979年9月、薬事根絶の願いを込めて、薬事二法を国会で成立させ、同年9月15日、国及び製薬企業がその責任を認めて被害者数済の道筋を定めた確認書に調印し、当時の厚生大臣が謝罪するとともに、薬事根絶の努力を確約しました。

私たちのたゆまぬ努力と運動により、難病対策としての施策を作ることができました。また、治療費の公費負担をはじめ、合併症として起こる余病についても公費負担を勝ち取ることができました。しかし、スモン発症から30有余年、スモンを理解する医師も少なくなり、国の医療、福祉など社会保障制度が後退するなど、スモンも難病対策から外され、別の組織で対策化されるという動きも出ており、私たちは私たちの勝ち取った諸々の対策が後退しないよう、これからも運動を続けて参ります。また、介護についてもこれまで介護してくれた父母、配偶者は勿論、兄弟や子供たちさえ長年の介護に疲れ、高齢化し、或いは倒れ、或いは他界し、そこへ介護保険制度の導入で「薬害被害者」という立場を全く無視し、特殊な神経症状を考慮せず、老人介護だけを目的とし、保険料徴収が先にある矛盾だらけのこの制度のおかげで、新たな困難をもたらしています。

2003年10月

スモンの会全国連絡協議会

都道府県別スモン被害者数

	報告県	被害者数	人口10万対被害者数		報告県	被害者数	人口10万対被害者数
1	北海道	450	8.4	26	京都府	339	15.1
2	青森県	36	2.4	27	大阪府	1,209	16.4
3	岩手県	78	5.5	28	兵庫県	466	10.2
4	宮城県	62	3.4	29	奈良県	152	16.6
5	秋田県	135	10.5	30	和歌山県	130	12.3
6	山形県	215	17.3	31	鳥取県	28	4.8
7	福島県	145	7.3	32	島根県	149	18.9
8	茨城県	55	2.6	33	岡山県	710	40.8
9	栃木県	64	4.0	34	広島県	440	17.9
10	群馬県	38	2.3	35	山口県	154	10.0
11	埼玉県	182	4.9	36	徳島県	414	50.8
12	千葉県	150	4.6	37	香川県	112	12.2
13	東京都	1,048	9.4	38	愛媛県	140	9.7
14	神奈川県	292	5.5	39	高知県	141	17.2
15	新潟県	368	15.4	40	福岡県	375	9.2
16	富山県	100	9.7	41	佐賀県	46	5.4
17	石川県	52	5.2	42	長崎県	73	4.5
18	福井県	131	17.5	43	熊本県	102	5.9
19	山梨県	43	5.5	44	大分県	108	9.0
20	長野県	240	12.2	45	宮崎県	37	3.4
21	岐阜県	232	13.1	46	鹿児島県	33	1.9
22	静岡県	183	5.9	47	沖縄県	1	
23	愛知県	851	16.1	不明		146	
24	三重県	228	14.7	計		11,007	10.6
25	滋賀県	124	14.0				

(厚生省特定疾患スモン調査研究班「昭和50年度研究業績」から引用)

使用販売中止となった186種のキノホルム系薬

京都ヌメンの会『光を求めて』(昭和49年)より

1 キノホルム及びプロキシノリン含有医薬品

販売名	会社名
アクロメトロン	㈱リバグッド社
アドスゲン	福地製薬㈱
アドスゲンシロップ	〃
アドスミン「A」	エスエス製薬㈱
アドミン「シミズ」	清水製薬㈱
アドメシ	小林薬学工業㈱
イソアジンカプセル	吉田薬品工業㈱
イソアジン顆粒	〃
イソアジン膠衣錠	〃
胃腸にダルム錠	近畿医薬品製造㈱
イヤスミンS	大正製薬㈱
エスエス小児下痢止め「カリナー」	エスエス製薬㈱
越中富山反魂丹	荒木薬品相互㈱
エマホルム	田辺製薬㈱

販売名	会社名
エマホルムS	田辺製薬㈱
エマホルム錠	〃
エマホルム錠(50mg)	〃
エマホルムP	〃
エルケルトン	東洋化学薬品㈱
エンテロヴィオフォルム末	チバ製品㈱
エンテロヴィオフォルム散「チバ」	〃
エンテロヴィオフォルム錠「チバ」	〃
エンブリミン糖衣錠	岩城製薬㈱
エマホルム錠(0.25g)	田辺製薬㈱
オキシコランカプセル	テイカ製薬㈱
オドール	北九州製薬㈱
快腸錠	共栄製薬㈱
電だこ錠	キング製薬㈱

販売名	会社名
カルベリン錠	理研薬化工業㈱
キノサイド	住友化学工業㈱
キノサン	一元製薬㈱
キノドリ	幸和薬品工業㈱
キノドリ	〃
キノドリ	〃
キノドリンドライシロップ	〃
キノビス錠	全薬工業㈱
キノフラ	㈱広貫堂
キノフランシロップ	関東医師製薬㈱
キノペリン	大師製薬㈱
キノホルムシロップ	東京宝生製薬㈱
キノホルム錠	大木製薬㈱
キノラジン	第一製薬㈱
キノミン錠「ヤシマ」	ヤシマ化学㈱
キヤベジン整腸薬	興和㈱
キヤベナー整腸薬	滋賀県製薬㈱
キヤベナー整腸薬大型錠	〃
急性用ミヤリサンF	㈱宮入菌剤研究所
強力エンブリミン錠	岩城製薬㈱
強力オバクニン錠	大和製薬㈱
強力コチーム糖衣錠	加藤翠松堂製薬㈱

販売名	会社名
強力キノシン「アマノ」	天野製薬㈱
強力キノゼット	ゼリア製薬工業㈱
強力調剤丸	いわしや薬品商事㈱
強力ピスト錠	武蔵野製薬㈱
強力フラニット	東洋化学薬品㈱
強力ヘクタリン錠	第一製薬㈱
強力メキサホルムA散「チバ」	チバ薬品㈱
〃	〃
強力モルペリン液	辰己化学㈱
〃 G	〃
〃 錠	〃
クミアイキノホリン錠	㈱堀内伊太郎商店
クミアイ新エキス錠	協同薬品工業㈱
クリニール	大正製薬㈱
クリニールカプセル	〃
〃 小児用	〃
下痢止めダモール	共栄製薬㈱
〃 B	〃
健胃整腸丸	大同製薬㈱
ケノミン	わかもと製薬㈱
コチームカプセル	加藤翠松堂製薬㈱

こどもはら薬 S 子供ワン コンバイン 細菌性止瀉整腸剤デルミンC錠「糖衣」 サンポアン 止痢錠 「広貫堂」 止瀉整腸コチム錠 小児用キノゼット顆粒 小児用キノビス錠 新アトポン錠 新胃腸錠 新バイシン整腸薬顆粒 新ヘルプ スーパーホルム 整腸赤玉はら薬 整腸健胃キム錠 整腸錠 整腸ネオベリン錠 セイドーSEE-00 綜合整腸錠シライシ	樹広貫堂 第一薬品工業 亜細亜製薬 長生堂製薬 樹津村順天堂 日本薬劑 樹広貫堂 加藤翠松堂製薬 ゼリア新薬工業 全薬工業 日新製薬 南都製薬 日本合成薬品 樹津村順天堂 大東製薬工業 朝日製薬 クロバー薬品商会 共栄製薬 気比製薬 荒川長太郎(佐) 白石製薬	田辺綜合胃腸薬 タニス(強力回復丸) タフマーゲン ダム錠 ダムノール タンゲニンS 中外整腸錠 腸活K チョーリガンレッド 鎮痛殺菌止瀉剤ミチノジツヘル テスミン テリオミン小児用 テルミン テスミンカプセル 特製赤玉はら薬 ナカベリン ニチホルム顆粒 乳化キノホルム 乳化キノホルム「タナベ」 ニュウホルム錠 乳幼児用キノビス散 ニューホルム	田辺製薬 樹谷回春堂 共栄製薬 東南製薬 国産薬品工業 森田薬品工業 中外製薬 肥前製薬 いわしや薬品商事 ミチノ製薬 佐藤製薬 三宝製薬 長生堂製薬 佐藤製薬 第一薬品工業 樹中製薬所 日本医薬品工業 立石製薬 田辺製薬 富山薬品 全薬工業 富山薬品
--	--	--	---

販 売 名 ネオベリン錠 ネオホルム顆粒 ハイモルカロンG パラス ハチホルム 顆粒 B錠 ハミング錠 ハラエース はらぐすりA PD5号 ビスノール錠 ビスベリン ビット錠 ビノキオ下痢止 ビフトA末 ビフト錠 病院院調利用フボカルシウム末 フェロベリンA 複合膏くすり 複方ホノホルム錠	会 社 名 東京宝生製薬 日本ケミフア 辰己化学 中外製薬 東洋製薬化成 大日本製薬 寺田薬品工業 杏林堂製薬 林薬品 東京模範製薬協同組合 相互製薬 東亜製薬 小野薬品工業 中野薬品工業 中滝製薬工業 太陽堂製薬 同仁医薬化工	販 売 名 複合ロートニン糖衣錠 複合ワカ末S糖衣錠 複合ワカ末糖衣錠 フクミラン フクミランカプセル フラキノシロップ「ダイサン」 フラキノ錠 ベクリン錠 ヘスクラ ペリセチン ベルゴリン S カプセル ベルセン ベルミックスC Aカプセル ホノホルムE「小児用」 Eシロップ一号 Eシロップ二号 E末	会 社 名 大和合同製薬 中滝製薬工業 中外医薬生産 第三製薬 エーザイ 日本薬品 大正製薬 森田製薬 旭薬品工業(脱田テイ) 同仁医薬化工
--	---	--	--



ホモホルム	岩城製薬㈱
ホルム錠 (0.1g)	田辺製薬㈱
ママオンコーワ錠	興和 ㈱
万平整腸止泻剂	万平薬品製剤所
ミルホルム	関東医師製薬㈱
ミルホルムシロップ	〃
メドリーゲ	理研新薬㈱
メリポルン	㈱リバグッド社
モートホルム錠	モート製薬㈱
ヤクセイ止泻剂B	日本抽出製薬㈱
〃 整腸薬	〃
ユリカカブセル	協和薬品工業㈱
レクホルム錠	杏林製薬㈱
ロートン	一元製薬㈱
ワカマツチヨコレート糖衣錠 (ワカチヨコ錠)	中滝製薬工業㈱
ワカ末複合錠A	〃

2. プロキシキノリン含有医薬品

エンテロスタチン	㈱ミドリ十字
----------	--------

